

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : [codmokan@agate.plala.or.jp](mailto:codmokan@agate.plala.or.jp)

支援会員・寄金 3,000円 (年額)  
\*会員には、本通言を配布します。



《写真説明》2月22日  
「教育大実習」子ども館  
体験会「英語で買い物」をしよう。  
本物のコインで果物/ジュースをゲット!

## INDEX

- P1: 巻頭言～  
P2: ヒューマンラスト/  
スクール動向、普及活動、他  
p3: 会費納入、グッズ提供など  
p4-5: 「卒業修業のつどい」  
p6: 大学生実習第4回、授業  
p7: ↓ 行事他  
p8: 時事、カレンダー、後記、他  
\* **つどいパンフレット**

## 「通じればいいんです」

月寒スクール英語担当スタッフ 鈴木 かおり

“May I help you?” “Strawberry, please. How much?” ” 75 cents.”

巻頭の写真は、2月学生週の子ども館公開授業での一コマ。学生さんがアメリカ人のお店屋さん役、子どもがお客さん役で、本物のお札・コインを使って、英語で買い物を楽しみました。本物のフルーツを買ってミックスジュースにして飲むので、子どもたちは大盛り上がり! 担当学生は、自身の海外実習で英語が通じた時の苦労と喜びを、子どもに体験してもらおうと授業を立案したようです。

わたしはスクールで英語を教えています。やはり「通じた喜び」を大切にしようと考えています。通じさせる相手は生徒同士。英会話というよりも、自分や友だちについて書いた英文を読み上げて、お互いに聞いてもらうスタイルを取っています。聞き役の子がニヤッとしたら、コミュニケーション成功です。

英語なんて多少間違ってたって通じやいい、という考えが、自分の授業の基本です。わたしがアメリカに3年間住んでいたのは90年代ですが、大人のための英語学校に通っていました。周りにいた日本人は自分も含め、大学出にも関わらず英語に苦手意識を持っていました。言いたいことがあっても、訥々とし言葉が出ず、ディベートで悔しい思いをします。一方で、自分よりも「テストができない」中南米の人たちなどが、「文法無視のなまった発音」でマシンガンのように持論展開するのを、羨望のまなざしで見つめていました。

以降、日本の学校ではコミュニケーションスキルを高めるために、リスニングや会話に重点がおかれ、小学校の英語が必修化されました。それでも、日本人の英語に対する苦手意識はあまり変わっていないような気がします。そもそも日本人くらい英語ができれば、他の国の人なら鼻高々なのです。自信があるからこそできるマシンガントークなのに、なぜ、日本人は自分の英語に自信が持てないのでしょうか?

子どもたちには「通じた喜び」が自信につながる体験を積み重ねて欲しいと思います。公開授業では値切るのに成功する子もいて、とても満足そうでした。学生に教わった“Price down”という表現は、実はバリバリの和製英語なのですが…間違っている、身振り手振りでも、通じればいいんです! [筆者は理事のお一人です]